

週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月6日(水)

《関心を持って祈りなさい ～教会から離れている人のために～》

今日の福音(マタイ 10・1-7)の箇所を、ちょっとおかしいと思われる方がいらっしゃるのではないかと思います。以前に簡単に説明したと思いますが、イエス様が12人の使徒たちを派遣しながらこのようにおっしゃっています。

『異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。むしろ、イスラエル人の家の失われた羊のところへ行きなさい。』と。

実際に聖書の中で、イエス様は弟子達と一緒に異邦人の村によく立ち寄られたことが書かれています。それにもかかわらず、十二使徒を派遣しながら異邦人やサマリア人のところへ行ってはいけません。むしろ失われたイスラエルの羊のところへ行きなさいとおっしゃっているのです。

今日のこの箇所はマタイの福音だけに書かれています。福音書を書いた人はマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ、の4名でした。その中でただ一人のイスラエル人がこのマタイでした。ということは、彼の立場では自分の民族が神様に対する信仰、イエス様に対する不信、そういうことに本当に心痛めたのでしょう。聖書学者達はこの箇所はイエス様が直接におっしゃった話ではなく、心を痛めたマタイが書き入れた箇所であると考えています。

さあ、今日はマタイの観点からこの失われた羊について皆様と一緒にみて行きましょう。マタイの視覚で見るとしたら、今の時代に生きているイスラエルの失われた羊とはどんな人々を言うのでしょうか。

私たちは宣教について結構強調されて来ています。その結果はどうなるか分かりませんが、とにかく私の口を通して、宣教のために動きましょと話して来たことを皆様覚えていらっしゃると思います。その宣教の対象は誰ですか。福音にまだ接していない人々、イエス様をまだ分からない人々、そのような人々のために福音を宣べ伝えましょという話ですよね。これは広い意味での宣教です。

それでは今日、この福音を通して考えなければならないのは、実際にうちの(太田教会の)信者である人々の中にも、洗礼を受けられた人々の中にも、この言葉に当てはまる人々が結構いるのではないかと思います。実際に何かがきっかけで洗礼を受けた。しかし、直ぐに去ってしまった人が沢山いるし、長年信仰の生活を一生懸命して来た人の中にも、何かがあって教会から離れた人々もいます。そして、個人的な事情、「私は人の前に立つには、共同体に入るには面目がない」と恥を感じて、教会から遠ざかっている人もいます。また色々な傷によって、人と係わると直ぐ自分の傷が現れるから「まあ、いいや」と思いながらくれんぼしている人もいます。その人々のために“先ず関心を持ちなさい。”“その人々のために祈りなさい。”というメッセージをマタイ福音者を通して私たちが考えるべきではないかと思います。

皆様、出来ればこの家族の中で教会から離れている人々に心を配りながらも、同時に外にいる色々な人々、福音について分からない人々のために手を伸ばすことがある意味で一番人間的に完璧な私たちの姿勢ではないかと思えます。

イエス様が「異邦人の道に行ってはいけない」とおっしゃっているとは、私個人的にも思いません。ただ「なぜ私たち救い主を持っている民族がこのように崩れてしまっているのか。」「救い主まで殺さなければいけなかったのか」と思うマタイのこのもどかしい心を推し量ってみましょう。

そういう意味で私たちも宣べ伝えるに相応しい信仰の生活しているのかを振り返ってみる機会になればいいのではないかと考えてみました。

ありがとうございました。